

令和4年度 伊予中学校 学校評価

令和4年12月実施

1◎でできている、2◎おおむねできている、3▲ややできていない、4×できていない

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1,2の計)
					1	2	3	4	
学習指導と教育課程	年間計画どおりに学習指導が進めている。 目標値: 肯定率80%(教①)	A	昨年度に引き続き、コロナ禍の中ではあるが、授業時数の確保に努めた。来年度に向けて、積み残しがないよう各教科毎に週案を活用し、進捗状況を把握する。また、緊急事態に備え、オンライン授業の準備を整える。	教職員① A	31	50	19	0	81
	よく分かる授業に努めている。(よく分かる授業をしている。) 目標値: 肯定率80%(教②・生⑪・保⑥)	A	「できている」「おおむねできている」と評価している生徒が9割おり、高評価である。継続して「分かる授業」を推進できるよう共通の研修体制のもと、各教科で更なる授業改善を図る。	教職員② A 生徒 ⑩ A 保護者⑥ B 地域	25 46 13	63 44 58	13 6 23	0 4 5	88 90 71
	自分の考えをまとめたり、伝え合う授業改善に取り組んでいる。(生徒:じっくり考え、進んで発言・話し合い。) 目標値: 肯定率80%(教③・生②)	B	生徒の評価がやや低い。コロナ禍で生徒が自由に意見交換をする場の設定を取り入れた授業展開が少なかったことが要因の一つに挙げられる。今年度からロイノートを用いて自分の考えをまとめたり相互に意見交換する授業改善の取組を開始した。今後更に推進する。	教職員③ A 生徒 ② B 保護者 地域	31 29	69 40	0 26	0 5	100 69
	道徳の時間を要し「心を耕し鍛える」道徳教育を推進している。(自分の思い・考えを深めている。) 目標値: 肯定率80%(教④・生⑤)	A	各学級で充実した道徳の授業を通して様々な価値観に触れる授業展開を行った結果、高評価となっている。今後も自分の思いを伝え合い、深め合う授業改善を推進するため、校内研修を充実させ、教師の授業力を高める研修体制を整える。	教職員④ A 生徒 ⑤ A 保護者 地域	31 56	69 35	0 6	0 2	100 92
	授業に真剣に取り組む、学力向上を目指して努力している。 目標値: 肯定率80%(教⑤・生①)	A	全体的には肯定率が高い評価結果ではあるが、基礎・基本の学習内容が十分に習得できず、学力の向上に繋がっていない生徒も見られる。今後、各教科で、振り返りを効果的にを行い基礎的・基本的事項の定着を図り、学力向上に努める。	教職員⑤ A 生徒 ① A 保護者 地域	50 41	50 46	0 11	0 2	100 87
	家庭での学習習慣が身に付く指導をしている。(身につけている。) 目標値: 肯定率80%(教⑥・生⑦・保①)	B	教職員・保護者と、生徒の間で評価での差が若干感じられる。家庭での学習習慣を確立させ、基礎・基本の定着を図るために、テスト期間中や長期休業中の家庭学習記録の充実を図るとともに、家庭での課題の在り方や自主学習への取組について指導の充実を図る。	教職員⑥ B 生徒 ⑥ B 保護者① C 地域	6 32 15	56 41 42	38 20 27	0 7 17	63 73 56
	生徒会活動・学校行事・部活動等で充実した活動を展開している。(充実している。) 目標値: 肯定率80%(教⑦・生④・保④)	A	コロナ禍の中ではあったが、文化祭・合唱発表会の再開など、工夫して、できることを広げてきた。生徒会では、女子の夏標準服の変更が実現し、生徒には達成感がある。今後、保護者の学校行事への参加を拡大し、教育活動への理解を深めていってほしい。	教職員⑦ A 生徒 ④ A 保護者④ B 地域	13 56 21	75 32 57	13 9 15	0 2 7	88 88 78
	学校関係者評価委員の所見	コロナ禍の中、工夫して授業改善をしている。家庭での学習習慣が定着するように、適切な課題の設定や学習記録表などを活用して、保護者と連携して進めてもらいたい。	学校の対応	コロナ禍の中ではあるが、工夫してできることを模索して、文化祭・合唱発表会を再開することができた。このことは、特に、これまで様々な制限を受けてきた3年生にとって大きな達成感と大きな思い出として心に残るものとなった。今後も単に再開するのではなく生徒の成長の糧となるような学校行事を創造して実施したい。テスト期間中や長期休業中の学習記録表などの充実を図り、望ましい家庭学習の習慣の確立を保護者と連携して目指していく。					
人権・同和教育	一人ひとりを大切にし、人間尊重を基盤とした集団づくりができています。 目標値: 肯定率80%(教⑨・生⑮・保⑧)	A	学級担任を中心に、それぞれの学年・学級の状況に応じて適切な指導を行うことができるよう日々努めているが、一層の充実が必要と考える。教職員間の連絡体制を強化し、保護者との連携を図りながら、温かい人間関係の構築に努める。	教職員⑧ A 生徒 ⑭ A 保護者⑧ B 地域	19 51 21	75 36 49	6 9 21	0 3 8	94 88 71
	人権・同和教育に計画的に取り組み、人権意識の高揚を図っている。(仲間づくりなどに進んで取り組んでいる。) 目標値: 肯定率80%(教⑩・生⑧・保⑨・地①)	A	全校体制での取組により、良い評価を得ている。今年度も有志による人権委員会を立ち上げ、地域の方々の協力を得て啓発DVDを製作し、県から表彰していただいた。今後、委員会の活動を全校生徒一人一人に浸透させ、支持的風土のあるより良い集団づくりを目指す。	教職員⑨ A 生徒 ⑦ A 保護者⑨ A 地域 ① A	31 62 25 56	63 31 60 35	6 5 8 0	0 2 7 0	94 93 85 91
学校関係者評価委員の所見	地域の方々へのインタビューを取り入れたDVDは、上映した公民館の学習会でも好評で、大変すばらしかった。中学生がここまで熱心に学習しているかと感動した。地域の大人が人権についてや差別解消に向けて真剣に考える気運が高まっている。今後も継続してほしい。	学校の対応	今年度も有志による校内人権委員会を立ち上げ、地域の方々を招いて聞き取り活動をするなどして学習を深めた。学んだことを基に、人権集会を実施して全校生徒で共有化した。さらに、地域の方々の協力をいただき、人権啓発DVDを制作して、地域の学習会や全校集会で視聴し、人権意識を高めた。今後も教職員の研修を推進する。また、生徒の変化を見逃さず、保護者と連携し、安心して学校生活ができるように努める。						

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1,2の計)
					1	2	3	4	
生徒指導	いじめ、不登校に対して誠実な態度で未然防止、早期発見、早期対応に努めている。 目標値：肯定率80%(教⑪・生⑬・保⑩)	A	アンケートや日頃の観察等により未然防止や早期発見・早期対応に保護者と連携して取り組んだ。いじめほどの学校でも起こり得ることを前提に、高い緊張感を持って当たる。不登校生徒についても保護者との連携を図りながら学力保障や登校に向けた取組を充実させる。	教職員⑩ A 生徒⑫ A 保護者⑩ B 地域	50 64 21	50 24 55	0 10 13	0 2 11	100 88 76
	様々な機会を通じて生徒と関わり、生徒理解に努めている。 目標値：肯定率80%(教⑫・生⑭・保⑪)	A	毎日の日記指導や日頃の生徒の様子を観察や言葉掛けなどにより生徒理解に努めてきた。様々な原因で登校に不安を抱えている生徒が若干名いる。保護者やスクールカウンセラー等との連携を図りながら、日頃、表に現れにくい生徒の悩みを情報共有しながら個別の生徒指導を充実させる。	教職員⑪ A 生徒⑬ A 保護者⑪ B 地域	56 55 19	44 32 55	0 9 17	0 4 10	100 87 74
	生徒も教師も気持ちのよいあいさつができる。 目標値：肯定率80%(教⑬・生⑯・保⑤・地②)	B	コロナ禍の影響もあり、あいさつが響きにくい状態であるが、教職員が率先してあいさつを行うとともに、生徒へ呼び掛けを行い、生徒が誇りに思えるような学校づくりに努める。	教職員⑫ A 生徒⑮ A 保護者⑤ B 地域② B	25 36 24 26	56 44 53 53	13 16 18 15	6 4 4 3	81 80 78 79
	朝食をとる、身だしなみを整える、時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。(身に付いている。) 目標値：肯定率80%(教⑭・生⑨・保②)	A	肯定率が高く、良い評価傾向であるが、家庭で見ている保護者の視点からすると、向上の余地がある。好ましい生活習慣が定着するよう、学級活動や道徳、委員会活動、「保健だより」などを通じて、「早寝・早起き・朝ご飯」を継続して指導していきたい。	教職員⑬ A 生徒⑧ A 保護者② A 地域	69 61 42	31 30 48	0 5 9	0 4 1	100 91 90
学校関係者評価委員の所見	いじめは人の命に関わる重大な問題であるので、早期発見、未然防止、適切な対応など、しっかりと取り組んでほしい。生徒へのケアを充実させてほしい。SNSを含めた情報モラルについての指導を徹底し、犯罪等に巻き込まれることのないよう、トラブルの未然防止に努めてほしい。	学校の対応	南伊予の良き伝統を受け継ぎ、教職員が率先して挨拶を交わし、生徒が気持ち良く学校生活を送れるよう、意識して指導に当たる。また、そうした平素のコミュニケーションや日記指導、アンケート、全教職員間での情報交換、保護者との連携によって、生徒理解に努めるとともに生徒指導を充実させる。						
安全管理	保護者・地域と連携し、地域ぐるみの安全確保に努める体制ができている。(生徒：安全な登下校) 目標値：肯定率80%(教⑮・生⑩・保⑫・地③)	A	全体的に良い評価を得ているが、自転車による登下校中のルールやマナーについては今後も徹底した指導が必要である。児童生徒をまもり育てる協議会を再開した。保護者や地域の方々の協力を得ながら地域ぐるみで子どもたちの安全確保に努める。	教職員⑭ A 生徒⑨ A 保護者⑫ A 地域③ B	31 75 21 41	69 20 68 32	0 2 8 12	0 3 2 0	100 95 89 74
	避難訓練等を計画的に実施し、非常時に対応できる体制をとっている。 目標値：肯定率80%(教⑯・生⑰・保⑬)	A	地震や火災に対する避難訓練や垂直避難訓練、予告なし訓練を実施した。訓練により課題を明確し、改善を図ることができた。今後も休み時間時の避難など様々な場面を想定し、想定外でも生徒が主体的に命を守る行動をとることができるよう指導の充実を図る。	教職員⑮ A 生徒⑰ A 保護者⑬ A 地域	69 69 28	31 26 65	0 3 5	0 2 1	100 95 93
	校内安全点検を定期的に行い、潜在危険の除去に努めている。 目標値：肯定率100%(教⑰)	A	施設の老朽化に伴う破損箇所が多かった。早期発見、早期修繕により、生徒が安全に学校生活を送れる環境は整えられている。今後も教職員による校内点検を継続し、安全な施設環境を保つ。	教職員⑯ A 生徒 保護者 地域	56	44	0	0	100
学校関係者評価委員の所見	横断歩道で車に止まってもらえたときに振り返って挨拶をする等、礼儀正しい。列も守って通行している。学校の指導の成果である。交差点での出会い頭等、校区内の危険箇所について安全指導を徹底してほしい。非常変災時に教職員が適切に行動できるようしっかり話し合い、備えてほしい。	学校の対応	登下校時に危険となる箇所の見回りを強化し、生徒が安全に通学ができるよう細やかな呼び掛けを継続しているが、登校時の車との接触や自転車の転倒等が見られた。引き続き年度初めの交通安全教室や安全指導、登校指導に努め、交通ルールやマナーの遵守、悪天候など状況に応じた行動を取ることができるよう指導を継続する。						
特別支援教育	学習が遅れがちな生徒や配慮を要する生徒への適切な指導ができている。(個別指導や学習相談等) 目標値：肯定率80%(教⑱・生⑲・保⑦)	A	授業が分かりにくいと感じようになった生徒が出てきている。TTや学力アップ週間の活用や個別指導・学習相談の一層の充実を努めたい。課題の設定や提示の仕方、指示を出すタイミング等、個に応じた支援方法を工夫する。	教職員⑰ A 生徒⑲ A 保護者⑦ B 地域	13 56 16	75 31 52	13 10 21	0 3 11	88 87 68
	特別支援教育に対する教職員の共通理解が図られ協力体制を整えている。 目標値：肯定率80%(教⑲)	B	支援が必要な生徒について、職員会等において、全教職員が共通理解を図り、支援を行ってきた。生徒が安心して学校生活を送ることができるようにするとともに、将来を見通した指導の充実を図りたい。	教職員⑱ B 生徒 保護者 地域	50	19	19	13	69
学校関係者評価委員の所見	TTなどでしっかり個別指導に当たっている。時間や人員に限られている中にもかかわらず、教職員は生徒の指導に丁寧に取り組んでいる。	学校の対応	生徒の肯定率は高いが、そうでない生徒が存在することに注目して、個別最適な学びを実現させていく。そのために、授業での実態把握と授業改善、学力アップ週間等を活用した補足的な学習を充実させる。支援が必要な生徒について、職員会で情報を共有するとともに個別の支援計画の作成、実践を推進する。						

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1, 2の計)	
					1	2	3	4		
研修	研修計画に沿って授業研究に取り組み授業力の向上に努めている。 目標値: 肯定率80%(教⑩)	B	コロナ禍の中、授業においても制限があり、研修を計画どおりに進めることが難しかった。若年教員の積極的な授業研究を通して指導の改善について考えることができた。「分かる授業」を進めていくために、各教科の指導方法の改善や、教職員用の研修を計画的に実施したい。	教職員⑯	B	31	38	31	0	69
	健全な社会人として信頼されるよう努めている。 目標値: 肯定率80%(教⑪)	A	今後も教育公務員としてのサービスの徹底や綱紀の厳正を徹底し、信頼される職員を目指していく。	生徒	-	-	-	-	-	-
				保護者	-	-	-	-	-	-
				地域	-	-	-	-	-	-
学校関係者評価委員の所見	コロナ禍の中、教職員の業務が大変になっており、毎日遅くまで仕事をしていないが心配である。教職員の健康の保持を何とか図ってほしい。	学校の対応	業務改善を図り、教職員が心身とも健康な状態で子どもたちの指導に当たることができるように努めたい。また、保護者・地域から信頼される教職員であるよう、教職員の交通安全協議会を中心に今後もサービスの徹底と綱紀の厳正を図る。	教職員⑲	A	50	44	6	0	94
地域連携	学校教育の様子を学校だよりやホームページ等で情報発信している。 目標値: 肯定率80%(教⑫・生⑱・保⑭・地④)	A	コロナ禍により保護者や地域の方々为学校に来ていただく機会が少なかったため、学校だよりやホームページなどの機会を可能な限り活用して学校の様子を伝えることができるよう努めてきた。今後も一層の充実を図りたい。	教職員⑲	A	38	56	6	0	94
	地域の教育資源(ひと・もの・こと)を生かした活動を推進している。「来てもらったり、出向いたり・・・」 目標値: 肯定率85%(教⑬・生⑲・保⑮・地⑤)	A	コロナ禍であるが、工夫をして地域調べ、職場体験学習、地域貢献活動などの校外学習や、しめ飾りづくり、児童生徒をまもり育てる協議会や民生児童委員連絡協議会の再開など、地域の方々にも多大なる協力をいただいた。今後も一層の充実を図りたい。	生徒⑰	A	52	38	9	1	89
				保護者⑭	A	22	59	16	3	81
				地域④	A	71	24	3	0	94
	学校から発信した文書類は、保護者の手元に確実に届いている。 目標値: 肯定率85%(生③・保③)	B	生徒は、文書類を保護者に届けていると評価しているが、保護者は、手元に届きにくいと感じており、評価にずれがある。特に重要な件についてはラインズメールを活用してきた。今後も生徒に繰り返し呼びかけるなど、確実に学校からの情報が速やかに伝わるよう努める。	生徒⑱	A	69	24	6	2	92
				保護者⑮	A	18	71	8	3	89
				地域⑤	B	44	32	6	0	76
	学校、PTA、地域はリサイクル運動等様々な行事を通して、よく協力して活動している。 目標値: 肯定率80%(教⑭・生⑳・保⑯・地⑥)	A	コロナ禍の中、昨年度に引き続き、PTA活動以前のように実施できなかったが、工夫してできることから取り組んできた。来年度は、コロナによる制限が緩和された後の、PTA活動の在り方について検討し、改善を図っていく。	教職員⑳	A	44	56	0	0	100
生徒⑲				A	60	34	5	2	94	
保護者⑯				A	37	56	6	1	93	
学校関係者評価委員の所見	保護者としては、メールで配信してもらえるのはありがたい。ペーパーレスが進められる時代でもあるので、メールを積極的に活用してほしい。	学校の対応	コロナ禍の中であっても学校のことをお伝えできるように、学校便りやホームページの充実を図ってきた。今年度もリサイクル運動で地域の方々から協力を得ることができた。また南伊予健康マラソンが再開し、公民館や地域の方々のお陰で、生徒それぞれの成長を確かめることができた。今後も保護者や地域との連携を大切にして教育活動を進めたい。	地域⑥	B	38	32	12	0	71
施設	施設・設備や教材・教具が充実していて、活用している。 目標値: 肯定率80%(教⑮・生⑰)	A	限られた予算の中ではあるが、必要性の高い教材・教具から順次購入していくようにしたい。	教職員㉕	A	38	56	6	0	100
				生徒⑳	A	35	48	12	5	83
				保護者	-	-	-	-	-	
				地域	-	-	-	-	-	
学校関係者評価委員の所見	老朽化している箇所への修繕が進んでいる。今後も必要な箇所については、適切に進めてもらいたい。	学校の対応	現有の施設・備品を感謝の気持ちを持って丁寧に使用する。老朽化による破損箇所等も見られたため、市教委と相談しながら生徒が安全に生活できる環境を整えてきた。今後も速やかに対応したい。							